

**1 学校教育目標**

かしこく やさしく 元気な子

**2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像**

○学校像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子供も教師も明るく生き生きと輝いている学校</li> <li>・子供・教師・保護者・地域の願いや想いを大切にする学校</li> <li>・保護者・地域から「おらが学校」として信頼される学校</li> </ul>
○児童・生徒像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・明るく生き生きと自己を表現する子供</li> <li>・人や自然と積極的に関わり、共に生きる子供</li> <li>・思いやりの心を持ち、目を輝かせて学び、遊び、働く子供</li> </ul>
○教師像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子供と共に汗し、喜びや悲しみを分かち合う教師</li> <li>・日々の授業の充実を目指して、挑戦する教師</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子供のよさを認め・励まし・高める教師</li> <li>・学校運営やPTA、地域行事にすすんで取り組む教師</li> </ul>

**3 学校の現状及び前年度の成果と課題**

1 学校の現状

明治33年創立、歴史と伝統ある学校で現在は通常学級12学級、特別支援学級3学級の編成である。児童は学ぶことに興味をもち、真面目に取り組んでいる。一方、自信をもつこと・自己肯定感に関しては課題がある。教職員は、若手教員が多い中、先輩の教員が学習指導、生活指導、校務分掌等において丁寧に指導している。保護者、地域は本校の教育活動を理解し、協力的である。開かれた学校づくり協議会やPTAを中心に、朝の見守りや長期休業中のパトロール、図書ボランティア、校外学習の際の付き添い等、この他にも学校への協力を惜しまない。

2 前年度の成果と課題

重点的な取組事項1 学力向上アクションプラン（基礎学力の向上）

学力の分析、補充指導を計画的に行い目標が達成できた。研究はプログラミング的思考の育成に取り組んだ。年7回の研究授業の実施ができた。

重点的な取組事項2 教師の指導力向上

ICT活用に向けて、教師間で研修を重ね、授業での活用につなげることができた。さらに充実させていく。

重点的な取組事項3 児童の心身の育成の充実

投力はコロナ禍もあり、大きな成果は得られなかった。体育科で「ボールを力強く投げる」学習・活動を重視して取り組む。

**4 重点的な取組事項**

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R3	R4	R5	R6	R7
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	教師の指導力向上	○	○	○		
3	児童の心身の育成の充実	○	○	○		

## 5 令和5年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
区調査の目標通過率85%		年度末までに区調査を再実施し、通過率を90%にする。		91.4%(国語92.0% 算数90.8%)		4月の結果を受けつまずきの解消に取り組んできた。7、12月に同一の問題で再調査を行った。12月の結果は、97.5%(国語96.7% 算数98.3%)と、前学年の学習内容はほぼ定着したといえる。		◎	
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続	朝学習・ 放課後補 充教室	全児童 国語、算 数	朝:水金 放:月火 木金	<b>朝学習(担任)</b> 国語:現学年漢字習熟 算数:さかのぼり学習 プリント、AIドリル等 <b>放課後(担任・副担任)</b> 朝学習の点検・復習、当該 学年のつまずきの解消	定着度確認テ スト(区調査 の再テスト) (7月・12 月・2月)	12月までに 実施する定着 度確認テスト で目標値を9 0%の児童が 通過する。	12月の確認テストの 結果(通過率)97.5% (国語96.7%、算数 98.3%)	前学年までの学習内 容についてのつまず き解消は夏季休業中 のサマースクールで 完了させ、9月以降は 現学年のつまずき解 消に向けた指導の充 実を図っていく。	◎
2 継続	ベーシッ クタイム	全児童 国語、算 数	各学級 1時間 /週	<b>担任</b> 週1時間、つまずきが見ら れた国語か算数の学習	学習終了後、 定着度を測る	既習事項の定 着度90%以 上。	既習事項の定着度は 85%程度である。	高学年は授業時間の 確保をするために、 週1時間の実施は難 しい。次年度は1~3 年で内容を工夫しな がら実施する。	△

3 継続	家庭学習 習慣の定着	全児童 全教科、 自主学習	通年	<b>担任</b> 音読・漢字・計算 家庭学習カードの提出 年3回、提出率を算出	家庭学習カー ド提出 提出率の算出	家庭学習提出 率85%以上。	家庭学習実施率 5月83% 10月78% 1月62%	AIドリル活用を柱と した家庭学習を推進 する。児童任せ、家 庭任せとならないよ う学校からの課題の 出し方を工夫する。 また、児童が学習の 成果を実感できるよ うにする。	△
4 継続	読書活動 の充実	全児童 国語	適時	・読書記録カードの活用 ・教員、図書ボランティア の読み聞かせ、本の紹介 読書月間（年2回）	読書記録カー ド	全児童の年間 平均読書冊数 を30冊以上 とする。	2月末の平均読書冊 数40冊	低学年は読書の時間 を確保しやすいが、 高学年は工夫が必要 である。始業前の読 書の時間をしっかりと確保するととも に、図書の貸し出し についても改善して いきたい。	△
5 継続	ニュース 見つけた	(4)5・6 年生 国語	月曜～ 金曜 クラス 内で交 代制	<b>担任</b> 各学級に毎日一紙配布し、 気になった記事の内容と 考えをまとめさせる。	記事の内容 のまとめと 自分の考えの 記述	8月末までに全 員が取り組む。 秋以降は詳しく自分の思い を書き表せる ようにする。	5,6年で計画どおり 実施。	6年は前年度の経験 もあり、記事の要旨 を簡潔にまとめる力 が高まった。自分の 考えや思いを表現す る力を高めるための 工夫を行う必要がある。	○

重点的な取組事項－２		教師の指導力向上			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
教師の各職層における資質・能力の向上		足立スタンダードに基づく授業観察カードにおいて、評価レベルを平均で1以上上げる。	授業観察カードでの評価で平均0.7の上昇であった。	経験の浅い教員が授業力を高めるために、良い授業を参観する機会や教材の本質を学ぶ機会を設定する。	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
ICTを活用した授業の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若手研修会(年10回)でICT研修会を設定</li> <li>・タブレット端末等を活用した効果的な授業づくり(全学年)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若手研修会のうち5回をICT研修会とし、指導技術の向上につなげる。</li> <li>・タブレットの効果的な活用例を全学年で提案。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT研修会を5回実施。</li> <li>・タブレット端末の効果的な活用として、ポータルフォリオとして活用する取組がいくつかの学年で行われた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業におけるAIドリルの活用方法を考えていきたい。</li> <li>・児童の思考力、表現力を高めたり、協働的な活動を充実させたりするためのタブレット端末活用の事例を全校で共有し、実践していきたい。</li> </ul>	△
校内研究会・校外研修の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研究会で分科会提案の研究授業の実施</li> <li>・毎月の区小研への教員の全員参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分科会ごとに研究授業(事前授業含む)を実施し、分科会組織で取り組む。</li> <li>・担当教科の研究発表会等への参加。職員夕会や研修会等で報告。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研究を中心に分科会で組織的に授業実践について取り組むことができた。</li> <li>・区小研や経験に応じた職層研修、分掌に応じた研修など、教員一人一人がキャリア等に応じた研修への参加ができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研究では区指導主事、校長を講師に招き、充実した研究会ができた。</li> <li>・教員個人のもっている力を全体に広げ、組織力を高めることができる校内研修を行う。</li> </ul>	○
SDGsの理念を取り入れた教育活動の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SDGsの17の目標とカリキュラムマネジメントの視点で関連付けた授業の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科等でSDGsの17の目標に関連付けた授業を全学年で実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「居心地のよい学校づくり」を中心に据え、SDGs関連の取組について、教科横断的に扱ったり、総合的な学習の時間を活用したりして展開することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年に応じて「自分たちでできること」を考え、取り組むことができた。今後、振り返り活動を充実させ、</li> </ul>	○

重点的な取組事項－3		児童の心身の育成の充実			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
児童の心と体の健全な成長		年度末の児童、保護者、地域、教員の学校評価アンケート肯定的なもの85%	学校評価アンケートにおける肯定的評価は60%であった。	児童の心や体の成長を促す取組について、保護者や地域への周知が不十分であった。	△
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
豊かな心の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>「花畑ビューティフルスクール運動」を実施し、児童自ら居心地のよい学校づくりを目指す。</li> <li>いじめの解消率の向上</li> <li>QU調査の分析を生かした学級経営</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「居心地のよい学校づくり」アンケートの実施、良好な回答85%以上。</li> <li>いじめアンケートの結果を基にした未然防止と早期対応</li> <li>QU調査の分析と共有。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>6月のアンケートでは90%、12月は95%が良好だった。</li> <li>いじめ解消率は97%だった。</li> <li>校内研修会でQU調査結果を分析し、学級経営の改善に組織的に取り組んだ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>12月のアンケートで90%の児童が、居心地のよい学校づくりのために考え取り組んでいることが分かった。次年度に向けても継続していく。</li> </ul>	○
健康な身体の成長	<ul style="list-style-type: none"> <li>休み時間外遊びをする児童85%</li> <li>投力向上をねらいとする全学年での授業の実施（年間5時間以上）</li> <li>外部機関と連携した健康教育の授業、年2回以上の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日直、生活指導部会を中心とした声掛けと、教員も加わった外遊びの実施。</li> <li>年間計画に基づいた投力向上の取組の充実。</li> <li>保健師、学校医その他を講師とした授業の実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>外遊びは85%以上できていた。</li> <li>投力については、東京都平均を上回る学年が多いが、全学年全国平均を下回っている。</li> <li>外部講師による薬物乱用防止教室や歯科指導（1年）を実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>外遊びはよくできた。投力向上に向けた取組を、低学年から継続的に行う必要がある。</li> <li>外部講師を活用した健康教育を次年度も継続していく。</li> </ul>	△
特別支援教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援委員会の開催月1回</li> <li>ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援委員会における支援を要する児童と家庭についての協議の実施。</li> <li>特別支援教室・特別支援学級の授業公開と指導法の共有（年3回）。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援委員会を中心に児童の状況に応じた組織的な対応を行うことができた。</li> <li>年3回の授業観察に合わせて特別支援学級・特別支援教室の授業公開を実施した。</li> <li>特別支援学級、特別支援教室の指導体制や指導方法の改善を行い、児童の変容が見られた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別に支援を要する児童への対応が組織的・継続的にできた。</li> <li>視覚優位な子供たちが増えている中で、板書の充実や指示の明確化など、指導上の配慮ができる教員を育成していく。</li> </ul>	○

## 6 まとめ

### (1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

#### 【課題】

- ・現在の学年の学習内容についてのつまずきを進級・進学前に解消するための年間計画を見直す必要がある。
- ・国語では、漢字の書き取りと設問に正対して文章で答える問題に課題が見られた。算数では、数量関係の問題で問題文を正しく解釈し、図をかいたりや立式することに課題が見られた。
- ・反復学習、読書を中心とした家庭学習の習慣化を充実させる必要がある。A Iドリルを
- ・読書活動について、授業における学校図書館の利活用を工夫する必要がある。
- ・年間を通した体力向上に関する取組計画を見直す必要がある。

#### 【対策】

- ・自分の言葉で文章を書いたり話をしたりする活動を多く取り入れる。算数においては、自分の考えた方法を自分の言葉で説明し、話し合いを通してより良い解決方法に練り上げる時間を充実させる。放課後補充教室では、マンツーマン指導を基本とし、早期につまずきの解消を図る。
- ・全教員が「足立スタンダードを基本とした授業」、「ICT機器を効果的に利活用した授業」を行うことができるよう、年3回の授業観察や校内研究、校内研修の充実を図る。
- ・宿題に関しては、A Iドリルを活用した反復学習を行うことを基本とし、学習した成果を児童が実感できるようにする。
- ・1～3年生は毎週学校図書館を活用して読書活動を進めていく。また、各学年の国語「本に親しむ」学習時に好きな本の紹介やブックトークなど児童の読書への興味が広がる工夫を入れていく。
- ・体力向上に関しては、年間を通した取組や学年に応じた単元開発をさらに進める。

### (2) 保護者や地域へのメッセージ

保護者の皆様、地域の皆様、開かれた学校づくり協議会の皆様には日頃からの教育活動・PTA活動へのご協力、放課後子ども教室、様々なボランティア活動等でご尽力を賜り大変感謝しております。今年度は、コロナ禍以前に近づいた一年でした。学校行事や地域行事がコロナ禍前のように行われ、子供たちの体験の機会も増えました。コロナ禍での経験や学びを生かしながら、コロナ禍の3年間のブランクを補いながら、目的を明確にして今後の教育活動を教職員一丸となって進めてまいります。次年度も皆様のご協力をいただきながら花畑小学校がさらに発展していくよう努力してまいります。

### (3) その他（学校教育活動全般について）

今年度も「花畑ビューティフル・スクール運動」を年3回実施する中で、「居心地のよい学校づくり」の実現に向けて全校で取り組むことができました。「あいさつ運動」では4・5・6年生が高学年としての自覚をもち、全校によい手本を示すことができました。「いじめ防止運動」ではポスターや標語を作り、みんなで意識を高めることができました。そして「みんなが輝く学校キャンペーン」ではSDGsに関する活動や地域安全マップ作りなど、学年に応じて「自分たちでできること」をテーマに実行することができました。

1月の能登半島地震災害義援金募金を行いたいと6年児童から声があがり、5日間実施しました。この取組から児童も教職員も、多くのことを学び、考えさせられました。今後も児童主体の教育活動を進めてまいります。